

## 令和7年度第2回豊田市図書館協議会 議事録

日 時：令和7年11月10日（月）午前10時～11時30分

場 所：豊田市中心図書館6階多目的ホール

出席者：委 員 9名

事務局 5名（図書館管理課）

関係課 5名（学校教育課、こども・若者政策課、  
保育課、地域交流課、学校づくり推進課  
おやこ応援課、多様性社会共創課）

指定管理者 4名

### （1）「豊田市こども読書活動アクションプラン（2026～2030）」について

事務局：資料1 1～5ページの説明

委員：大きな変更 ①文字の変更、②担当課の追加、③事業内容で近接するもの、目的が同じものをまとめた、ということだった。意見、質問があるか。次回が最終のため、ここでの意見等が反映されていく。

委員：2点ある。1点目、基本理念のあるべき姿の記載を統一しなければならぬと思う。2点目、4ページ2（5）推進組織【担当者連絡会】令和7年3月時点とあるのは、出来上がったときには令和8年3月時点となり、課が追加されるという理解でいいか。

事務局：はい。

委員：3ページ 基本理念説明文中に「・・・AIの発達・普及など、こどもたちを取り巻く環境も著しく変化しています。」とある。AIの発達はすごく早くて便利。一遍体験してしまうと、頼り切ってしまうのではないか。事実をどう確認するか。自分で考える能力をどう維持するのか。本を取る前にAIを活用することを知ってしまうと、もう本には戻らない気がする。そういうところをどう取り組んでいくのか。

事務局：探究的な学習への支援（2（6）事業15）で、情報の真偽を確かめるとか、調べ方等、自分の考えを作るということをやっていく。また、学校教育のなかでも教育課程に位置付けた読書活動の推進（2（6）事業11）の中に、探究的な情報活用能力というところで取り組んでいくことになると思う。

関係課：学校教育課で情報化プランを現在作成している。その中で、AIに

どのように関わっていくかを検討している。現時点では、教職員の AI 活用を認めているが、子どもたちが使うことは、まだ止めている。検討しながら、より効果的な使い方を目指している。次期学習指導要領改訂に伴って、情報に対して非常に意識が高くなってきていて、現在は、高等学校で情報科があるが、次期学習指導要領では中学校の技術家庭科の技術の部分に位置付けられる。小学校においては総合的な学習の時間で情報をどのように扱っていくかという部分について位置付けていくというようなところで、方針が少しずつ出てきているところなので、そういうところも合わせながら発達段階に応じて子どもたちがより適切に自分の目的に応じて情報を活用していけるような取り組みを進めていきたいと思っている。

委員 : 理念のなかに入っていることを考えると事業の中にこの言葉が少し出てくるほうが、望ましいのかもしれない。事業 15「探究的な学習への支援」に AI の活用における本の重要性とか入れるようにして、今のような意見が、(6) 指針・方策・事業・取組一覧を見たときに薄れていってしまわないように考えるといいのかもしれない。ただ、今、AI の活用を豊田市で子どもに対してどうするかの方針、基本的な教育方針との兼ね合いがあるので、どのように書くかが難しいと思う。課で調整してほしい。

委員 : 豊田市としての方針があるのであれば、2(4)(指針2)「・・・多様な情報媒体のよさを知り・・・」を「・・・多様な情報媒体それぞれのよさと特徴(あるいは課題)を知り・・・」というふうにして、それぞれに良さもあるし、課題もあるというニュアンスが含まれるといい。

委員 : AI に関しては、使い方が問題だということは失敗してみないと分からないというところがある。ただ止められると使いたくなるっていうのは人間の心理かなと思う。その辺の塩梅、バランスがとても重要なので、「良さと課題」を入れるということを検討することと、理念に AI という言葉が出てくるのでそれに関わる事業を、薄れてしまわないような工夫を検討すること。

2(1) 枠内「切り拓く」の拓くという文字を文部科学省でも使っているので変更したとの話だったが、その時に切り拓くとやっているか。それとも拓くだけか。つまり、切りが要るのか。切り開くときは違和感がなかったが、この拓くを使ったときに、切る必要があるのか。いかがか。文部科学省の使い方はどうか。

- 事務局 : 確認する。
- 委員 : 皆さんはどうか。切るがいるかどうか。拓くでもいいのではないか。  
文部科学省に、別に揃える必要もないが。市の感覚でいい。
- 事務局 : 文部科学省というよりは、上位計画である教育行政計画が、切り拓くをこの拓くを使っていたので、これに合わせたほうが良いということ。
- 委員 : 「・・・心豊かに・・・」のニュアンスと、切り拓くの切りとはちょっとずれる感じがある。
- 委員 : 心豊かにの温かいイメージと、切りのスパツとというところは、確かにそうだなと感じた。上位計画の話にもなるほどと。両方に納得した。
- 委員 : 抽象的な意味合いは拓く、物理的なものは切り開く。文章的には拓くが良さそう。
- 委員 : 新しいものを見つけていく、既存の様式、そういうものを破っていくとすると、切るというちょっと強めの言葉もいる。
- 委員 : 切りというちょっとニュアンスとして怖いような言葉がここに載ってくるということは、今、改めて考えると切りは要らないのではないか。
- 委員 : 二人の意見を聞いて、未来を拓くは馴染みがないので違う言葉に変えたほうが良いのではと思わないわけでもない。
- 事務局 : 文部科学省は両方使っている。自己肯定感を高め、自らの手で未来を切り拓くでは拓くを使っている。
- 委員 : 拓の字は、それでいいと思う。切り拓くとすべきか。
- 事務局 : 切り拓くとなっている。
- 委員 : 切り拓くとするとめざす姿「本に親しみ、楽しみ、活用して、・・・」に、子どもたちが本を活用して未来を自分の意志でひらいていくニュアンスが出やすく、感じられやすいのでは。
- 委員 : 主体性。別の言葉にするというのもあり。これについて、このような意見交換があったということで、いろいろ考えてもらって、次回提案とする。
- 事務局 : 資料1 6～12 ページの説明
- 委員 : 後半の説明があった。それぞれの方策、それに合致する事業が全体として分かるように書いてある。概要なので、これを見ることでこういう事業もある、こういう取組をすると挙げておいてもら

えれば、これからの5年間の計画の中に盛り込んでいけるのではないか。

委員 : 学校で本に触れるというと、国語の授業がとても大事だと思う。教科書を読んで面白いなと思って、同じ作者の本を自分で本屋に行く、図書館に行くとか。本に書いてある一言がずっと自分にとって励みになっているとか。そんなことが本との出会いの中で生まれてきている。国語の授業の中で先生方が「本はこんなに面白い」とこどもたちに伝えることが大事ではないか。

委員 : 教科に焦点をあてた事業のあり方もいいのではないかという意見。

委員 : 10 ページ方策③事業 11 文中、子どもたちをこどもたちに。8 ページ方策②事業 6 多様なこどもと広げたときに、ここにあるのは読書自体にハードルがあるということをも念頭においているのか、もう少し広げて、本にアプローチすること自体にハードルがあるという経済的、家庭的環境等そういうこどもたちを含めているのかと考えると、私は後半も入れたほうがいいと思っている。読書バリアフリーという言葉が入ってしまうと、環境とかそういうところのアクセスが難しくなってしまうので、事業としては読書の推進・情報提供にしておいて、読書バリアフリーは下の文中だけにとどめておいて、可能であれば本へのアプローチが難しいということもこどもたちに対しても何かできることが箇条書きで一つ入るといい。豊田市にとって大事なプランなので、どんなこどもでも取りこぼさないという意識でつくってもらえるとたいへん有難い。

委員 : 幼児から小中学生にかけての発達段階でこどもたちに習慣を与えるというのはこどもたちの取り巻く環境、特に家庭あるいは学校での影響は非常に大きいと思う。指針 2 方策②家庭における読書活動の推進。これは、以前からやっている。年々、こどもたちの読書の意識は高まってきている。けれども、家庭、親の意識が低くなっているという状況が、いままでやってきたにも関わらず徐々に下がっているという部分は何らかのアクション、訴えるものを多くするのか、どこを絞ってするかは分からないが、同じことをやっていたのではたぶん上がっていかない。より親に、あるいは環境に訴えていく部分で、もっとこうしていきたいという考えがあれば教えてほしい。

委員 : 指針 2 方策③11 (10 ページ) 中点の2つ、これをどのように活性化するのかということか。

委員 : 読書をしようという意識が高まる環境をどのように作るかという

部分で、今まで指針2方策⑩ 中点4つは以前もやっていると思う。同じことでも、より、それを強くやっていくのは大事なことだと思う。もっと強い、こうしていきたいと思いがあるか。

事務局 : 家庭にという意味ではブックスタートが、豊田市のほぼ全てのこどもたちと保護者にできる場なので、ブックスタートから始まって、そこからいかに家庭で続けてもらえるかということで、園児向けのほんのかあどであったり、お薦め本のリストを活用してもらったり、図書館でイベント ビブリオトークを実施している。今年増えてきているのは、学校が、授業参観の時に、親子で読書をする講座に講師派遣依頼をしてくるようなもの。あとは就学時健診時にボランティアが行って読み聞かせをしたり、読み聞かせのコツや良さを伝える時間を設定している学校もあつたりするので、そういった形でさらに強化していくという意味で書いてある。

委員 : 方策⑩はそういう意図はあるけれど、なかなかうまく、伝わりにくい。

委員 : スタートは当然いいこと。それを親が活用して、こどもたちに大事だという意識をどこまで持たせていけるかという部分が重要と思うので、アフターフォローではないが、そこにいかに力を置いていくという部分が大切ではないか。

委員 : 方策⑩にどう書き込むかなかなか難しい。課題意識はみんな持っている。何をやったらいいかわからないというケースが多い気がする。これをホームページの中に、PDF じゃなくて、クリックすると好事例を閲覧でき、情報が共有される、活動情報が共有される。そんな仕組みにしたりして情報の出し方をちょっとコントロールしてみるやり方もあるのではないか。

委員 : 昨日、園で、保護者向けに絵本の読み聞かせの楽しさ、面白さというテーマで講師に話をしてもらった。読書活動の推進、読書がこどもに与える効果等、資質能力につながるとか、ひとの話が聞けるこどもに育っていくのではないかとかを具体的に話をしてもらった。保護者の反応を見ていたら、持ってきた本を「撮らせていただいてもいいか」とかすごく質問が上がった。生の声を聴くとか、生の話を聴くのはとても大事なことで学んだ。そうすると、ブックスタートでも生の声だったり、生の絵本の読み聞かせをまだまだ小さいこどもだけれども、保護者に話をしたり、育成したり、母親たちの心が動くということがとても大事なのではと感じた。そういった場を増やしていけるといい。あと2点。(8) 事業概要指針1方策

①3「園では、こどもたちが、自然と本に親しめる環境づくりに努めます。」とある。そうであるが、担当が代わっていくなかで何をやっていくのかが分かるように示してあると考えると、「自然と」は抽象的になってしまう。ここでは、環境整備。「園では、こどもたちが、本に親しめる環境づくりに努めます。」だけでも明確になると思う。もう1点、9ページ指針2方策①9、「・・・本がより身近になるよう環境整備を進めていきます。」とあり、ここでは、保育者とか人への支援をうたっていると思うので、ここには、前に環境整備とつけてあるので、あえてここはなくてもすっきりして、人への支援を行っていくところと分かりやすくなるのでは。

委員 : 指針1方策①3「園では、こどもたちが、自然と」の“自然と”の意図は。

事務局 : 園の環境の話聞いたときに、意識の高い先生のいる園はこどもの手がすぐに届くようなところに本が並んでいてすぐに本が読める。一方で本がない教室もあって、すごく差がある。普段、本を読もうと思わなくても、目に本が入ってくるとか、手に届くところに本がある環境という意味で、“自然と”とした。

委員 : 本を手に取りとすると、本が1冊もない場所を変えられるのかもしれないので、そういう言葉にするのもありかもしれない。

委員 : 具体的で、とても分かりやすい。

関係課 : 7ページ指針1方策①2「交流館等のネットワーク館における環境整備」とあり、5ページ指針1方策①2では“交流館等の”文言がない。9ページ指針2本に親しむ機会の創出、5ページ指針2本に親しむ機会の創出であるが、4ページ指針(4)指針2は本に親しみ活用する機会の創出となっている。文言が一致していない。10ページ指針2方策③学校における読書活動の推進、5ページ指針2方策③学校における読書活動の充実で揃っていない。ちなみに、読書活動の推進か充実というところだと、指針2の①、②は読書活動の推進、④はティーンズ世代のための読書活動の支援、読書活動の推進という文言と支援という文言の2パターンある。狙いがあった、使い分けているのならいいが、そういう訳でなければ統一したほうがいいのではないか。

事務局 : 精査する。

委員 : 2点ある。8ページ指針1方策②6、配慮が必要ということを書いたと。とてもいい。実情を知ってもらおうということで。“すべてのこどもたち”とか、“すべてのひと”というのが、例えば、私たち、

障がいのある当事者が聞くと、僕らは入っていないと思ってしま  
う。例えば、防災でも、誰ひとり取り残さないといいながら実際、  
避難所に行けない人がいる。本が手に届くところがいいと、でも、  
そこまで行けない人もいるということがなかなか想像しづらい。  
意識をこのなかに盛り込んでつなげていってほしい。もう一つは、  
若者の本離れを防ぐのは無理ですね。タイパとか言われる時世で、  
本はタイパめっちゃめっちゃ悪い。でも、やれることをやり続ける、も  
っと楽しくするかっていうとこだと思う。わざわざ新しいことを  
やらなくても、今あるものをやり方をちょっと変えるだけですご  
く変わると思う。

委員 : 確かに、指摘のとおり「多様な」「すべての」としたときに、私た  
ちは安心してしまうというところがある。そこにも意識を置いて、  
8ページ指針1方策②6多様なこどもに括弧書きを付けてはもら  
ったが、今の意見を反映するとすべてのこどもたちがと書いた途  
端にそれが思い込みになる。取り残されるこどもがないかを常  
に意識しというような言葉を入れてすべてを見つけようというよ  
うな意識がここに入ってくると、今の意見が活かせるのでは。

委員 : 8ページ指針1方策②6「多様なこども」となっているのがポイン  
トで、こどもたちとしてしまうと個別が見えなくなってしまう。説  
明文で「こどもたち」である、学校とか園だと「こどもたち」とい  
う表現になるが、そうじゃないところのこどもって書き換えられ  
ないか。

委員 : 文章の中で、個としてこどもを捉える必要性がある場所と集団的に  
捉える場所を意識していこうということ。

委員 : たくさんの取り組みに頭が下がるばかり。例えば、10ページ指針  
2方策⑤13、子ども食堂。ボランティアが本を持ってきたところ  
でこどもたちとそもそも合わないと思う。どこかちょっとできた  
らいいなというところに、うまく知見を活かした進め方を提案で  
きると非常にいろんなところに届く。可能性を感じたところが1  
点。2点目。“タイパ”が非常に大事。世の中、その流れになっ  
てしまっている。一周回って、新聞のほうがいろいろ見えてタイ  
パがいいという記事。いろんなところで、結局、先ほどの心豊かに  
切り拓くは非常に難しい。読書と普段の効率を求めるのは難しい  
ところ。たぶん、これが止まることはないと思うので、取り込む施  
策が何かしら必要なのではと思う。例えば、Audibleのような耳か  
ら聞くことも読書と呼んでいいのかという課題もあるが、1か月

に1冊読まない人たちの中に1冊分聞いている人がいるかもしれない。柔軟に考えたり、ストレスなく速く読めたら、もしかしたら読むっていいなになるかも。さらに今よりもAIなりいろんなものが進んで、ショート動画がたくさん流れてくる世の中で、読書に巻き戻そうというのは本当に難しい。特に高校生以上は、豊田市立の高校生ではなくて施策が打てない難しいところにいるので、何か、突破口が見出せるといいなという感想。最後、10ページ指針2方策④12 Instagramでの情報発信。本がこんなに素敵だよっていうのを、たぶん提案していったほうが認知する可能性が高い。行政なのでやりにくいこともあるかもしれないが、読書だとか、読み聞かせだとか、#(ハッシュタグ)系統からいろんなアイデアを出すといいのではないか。

委員 : 図書館とか博物館とか美術館というのは、一定時間、自分の時を止めてくれる場所でもあるので。それをうまくかみ合わせていくというのは大事。最後に、Instagramのことは、言っていたとおりでと思う。本の紹介だけでなく、本をめぐる日常とかそういうのだと興味を持ってもらいやすいのかもしれない。

委員 : 10ページ指針2方策④12「・・・多くのティーンズ世代に読書活動に参加し興味を持ってもらえるような機会を・・・」と「もらえるような」という表現がしてあり、他のところは「親しめるように」という形、ここだけ何か「してもらおう」という表現なので気になる。「興味を持てるような機会を」でいいのではないか。自分で選ぶという時に、なかなか、本が選べずに本棚の前でうろうろしている子どもたちも多い。読み聞かせを集会のなかで行うが、その本を図書館で探す。子どもたちにもいろんな本を紹介する機会はずごく大事だと思っている。読み聞かせの方が来て読んだ本を、またわざわざ子どもたちは探しに行ったり読むということがあるので、たくさんある本から選ぶという力も付けていかないといけないと学校現場では感じている。

委員 : 全部、主体的な表現にしたほうがいい。11ページ指針2方策⑥14「魅力的な企画展示や各種イベントの実施」、これは、利用することを前提にした、もう利用している人に対するものだけのニュアンスになっているが、ラリーのイベントに合わせて企画展をやったという話は利用していなかった人を取り込もうとするサービスだと思う。少し広げられないか。豊田市のイベントであるとか、あるいは他の公的な社会教育施設そういうところとの連携をするよ

うな企画みたいな形で書くと開かれてくると思う。  
会議後、気づいたことがあれば、仕上げに向けて、より良いものにな  
っていくように意見を事務局に出してほしい。事務局は、これまでに出  
た意見を参考に作業を進めてほしい。

以上